

反応を水中・常温・常圧下といった非常に温和な条件で実現しています。そこで、もし、自在に反応環境を制御する手法が確立できれば、生体内反応を凌駕する触媒システムの開発が可能となりうると考え研究を推進して参りました。

した。幸運にも、開発した触媒システムを用いることで、いくつかの有機反応で水中・大気下・室温という穏和な条件下で高効率な分子変換に成功しました。

これまでご指導いただきました諸先

生方（特に分子科学研究所・魚住泰広教授、北海道大学・澤村正也教授）、並びに共同研究者の皆様に、心より感謝申し上げます。今回の受賞を糧に、さらに研究に邁進致します。

（浜坂 剛 記）

## 国際研究協力事業報告

### EXODASS general meeting and mini-symposium

報告：物質分子科学研究領域 准教授 櫻井 英博

20年度後期より4期にわたって実施された、JSPS事業「若手研究者交流支援事業～東アジア首脳会議参加国からの招へい～」(JENESYSプログラム)の後継プログラムとして、分子研独自予算によるEXODASS(EXchange prOgram for the Development of Asian Scientific Society)プログラムが昨年より発足しており、今年度は10月より第2回目の招聘が開始された。

本事業は、現代自然科学が解決すべき問題のひとつである環境・エネルギー問題を中心とした分子科学の諸問題に対して、東アジア諸国における自国での研究開発を可能にするための基礎研究基盤の確立を協力に支援すべく、主として学位取得前後の若手研究

者を招聘し、また本交流事業後のフォローアップとしての共同研究体制を確立し、自国における基礎研究の継続を力強くサポートすることで、基礎科学の定着を推進することを目的としている。完全な分子研独自プログラムとなった今回から変更になった最も重要な点は、これまでのプログラムは招聘対象国がASEAN+3(インド、オーストラリア、ニュージーランド)に限定されていたのを、既に分子研と深く関わりのある極東3カ国(中国、韓国、台湾)も対象国として拡張した点にある。特にJENESYSプログラムで問題となっていた国籍問題(例えばシンガポールの大学に所属していても、中国国籍の研究員は招聘不可)からも解放される

ため、より自由で公平な審査が可能となった。

今回は5月から7月にかけて募集及び候補者選考が行われ、その結果9名の招聘を内定した。従来通りのASEAN各国からは、タイ2名、ベトナム1名、シンガポー

ル1名、マレーシア1名、インドネシア1名を招聘し、これに加え新たな対象国からは、台湾2名、韓国1名の参加を得た。

招聘は2012年10～2013年1月にかけて実施され、各研究者に応じて、22～90日の期間での研究プログラムが組まれた。また11月30日に、全員の招聘者を一同に会し、全体会議とミニシンポジウムを開催した。本プログラムの大きな目的のひとつとして、将来にわたるアジア分子科学ネットワークの形成があり、各国の同世代の若手研究者の横のつながりを形成する上でこの全体会議の役割は非常に大きい。今回も、分子研に在籍している多くの留学生も参加し、大いに盛り上がった。

本JENESYS/EXODASSプログラムを継続的に開催している効果が顕著に現れ始めている。昨年開催されたアジア化学会議(14-ACC)では、数多くのプログラム卒業生が参加し、そのプレゼンスを示していた。また、第2回JENESYSプログラム参加者主宰の研究室の大学院生が今回のプログラムに参加し、本プログラムの趣旨であるネットワーク形成が着実に進んでいることを伺わせている。

